

のしろ凧を後世へ のしろ凧保存会の活動

会長の角谷敏明さん



今回の取材では、能代凧保存会の角谷会長からお話を伺いました。

能代凧保存会は、能代凧の普及と継承を目的に活動を行っています。

全市凧あげ大会

毎年、4月下旬に行われる全市凧あげ大会。能代凧、一般凧、大凧、アイデア凧など、各地の自慢の凧が空に舞います。

能代凧保存会では、市外、県外で行われる凧あげ大会にも参加しています。

こちらが参加すると、相手もこちらの大会に来てくれるので、地元の大大会を賑やかにさせるには、市外の大大会にも参加することが必要と会長は言います。しかし、保存会に資金力がないため、市外の大大会も参加できるのは、宿泊を伴わない日帰りに限られ、結果、遠くの大大会には行くことが難しいのが現状だそうです。



凧づくり教室の開催



保存会では、子ども館や青少年ホームなどで毎年、能代凧の講習会を開いています。

さらに、依頼があれば小学校へ出向き、凧づくり教室を開いています。

子どもたちの作った凧は、実に個性豊かで、大変面白いといえます。

こういった活動を通じ、楽しみながらも子どもたちに地域の文化と触れ、理解する機会を作ってあげたいと保存会の皆さんは願っているそうです。

取材を終えて

今回のリポーターの二人は出身が県外なのでなぜベラボーだこは、「アツカンペー」をやるように舌を出しているのかと思いましたが。結局のところはっきりした由来はわかりませんでした。しかしユニークな絵柄です。

のしろ凧保存会の活動も決して万全ではありません。現在、運営費は会員からの会費だけで運営されているため、資金力が乏しいほか、メンバーのほとんどが高齢者であるため、後継者の育成も重要な課題となっています。角谷会長も「もっと若い人にも参加してもらいたい」とのことです。長く伝わってきた地域の文化を、地域の活性化につなげていくことができないうものではないでしょうか？そう思った今回の取材でした。



能代凧の謎

「能代凧保存会」の会長である角谷敏明さんにお話しを伺いました。

る日本で、日本人の手先の器用さと相まってすばらしい発展をとげ、全国各地でいろいろな和凧が作られました。凧の種類が多いことでは日本は世界一だそうです。

子どもや孫の成長を祈り、凧に描かれる絵柄は、たくましく勇ましい金太郎や牛若丸、戦国の武将などが選ばれています。

舌を出した「べらぼう凧」の由来については過去に何度か取材を受けたのですが、確実なものはないわかっていないそうです。べらぼう凧は、江戸末期にはすでに実在していたようですが、男べらぼうの芭蕉や女べらぼうの牡丹の花のように、北国では、普通見られない植物が描かれていることから、南国のものが北前船によって伝えられたのではないかと。また、舌出しのルーツはインドのバラモン神カリーーであり、魔除けの意味があるのでないかと言われています。インドネシ

アのバリ島のお面も舌だしで有名です。べらぼうの語源としては「バラモン凧」からきたという説や、江戸弁の「べらんめえ」、「べらぼうめ」からの説があります。

能代の過去の大火により、凧の貴重な資料も焼失したものが随分あるのではないかということ、本当に残念ですが、どういう由来にしろ、このユーモラスな絵柄のべらぼう凧が今日まで市民によって受け継がれてきたことは事実です。



継承の困難さ

そんな能代凧も、残念ながら後世に残していくことが難しくなっています。環境への配慮から石油系の染料から植物性の染料が主流になり、目立つ色がなかなか出なくなりました。また、凧の材料である竹・糸・和紙も、作り手の減少で年々、手に入らなくなるなど能代凧の存続も危ういものになりつつあります。

材料の調達に困難に加え、さらに継承の危惧があげられます。現在、市内で凧を販売しているのは万町の北萬さん一軒だけ。